

# BASIC INCOME teach-in

## 第一回 なぜベーシック・インカムなのか

>>> 講師／山森亮

発言／フリーター、野宿者運動、学生、家賃廃止他

>>> 日時／5月26日(土)午後5時より

>>> 場所／上智大学

9号館2階256教室(四谷駅下車徒歩2分)

主催／ベーシック・インカム研究会・東京

協賛／「vol」(以文社)

**ベーシック・インカム** —それはすべてのひとが、その生を営むのに必要なお金を無条件で保証されることです。資産／労働／性別／婚姻／年齢／障害の有無などを一切問われことなく、ひとはただその生存のゆえに、ベーシック・インカムを要求しうるのです。

ベーシック・インカムを考えること、それは「労働」「生産」「生存」といった問題をあらたな視点からみなおすことを意味します。それ以上に、わたしたちの手に「政治」をとりもどすことです。

「格差社会」や「勝ち組」「負け組」の二極化などが、政府やマスコミにまで問題にされるようになり、いまや格差や不平等への関心がこれまでにないほど高まりつつあります。そこでは、より豊かな生活を送る人びと(持てる者)と、より貧しい生活を強いられる人びと(持たざる者)との間の格差が開き、なおかつ固定化しつつある、ということが言われています。このような「格差」や「不平等」への関心の広がり比べると、より貧しい生活を強いられる人びと(持たざる者)の生そのもの、あるいは「貧困」そのものへの関心はそれほど広がっていません。

しかし実際には私たちはみな「貧困」ではないでしょうか。餓死のような極端な事例をあげるまでもなく、安定的な住居を持たず、吹雪の夜でも路上のダンボールで眠るしかないホームレスや、週に6日の労働に精を出しても貯金もままならないフリーター、「奨学金」という名の何百万もの負債・借金を背負わされ、なおアルバイトで収入を補わないと学業を続けられない大学院生、少ない夫の収入でやりくりしながら子供のランドセル代をどうにか捻出する主婦、一年に500万以上稼ぎながらも毎月10万以上の住宅ローンに終われる正規労働者(賃金奴隷)にいたるまで、私たちはみな貧しく、そして不安定なのです。

貧困が貧困として語られることが少なくなった傍らで、それは確実に回帰しつつあり、それを担う階級を指摘することさえできます。たとえば「プレカリアート」という呼称は、こうした私たちの不安定な生＝労働のあり様を端的に名指すものではないでしょうか。

いずれにせよ、問題なのは、私たちの「貧困」であり、生活を回していくに足るお金がないということです。それならば、私たちは、ベーシック・インカム—その生を営むのに必要なお金を無条件で保証されること—をもっとおおらかに要求していいのではないのでしょうか。

そういうわけで、いまこそベーシック・インカムについて考え、語り合い、そして要求として立ちあげるべき時だと私たちは考えています。

そのためにベーシック・インカムについて公開で討論する場をもつことにしました。

第一回目では、ベーシック・インカムについての認識を共有するとともに、いくつかの現場からベーシック・インカムについて発言してもらおうと思います。

ベーシック・インカムに関心のある方はもちろん、これに異議のある方もぜひご参加ください。